

## それぞれの選択に寄り添う

公立大学法人福島県立医科大学医学部神経精神医学講座  
准教授(精神科医師) 三浦 至

東日本大震災より6年が経ち、ふくしま心のケアセンター設置からは5年が経過しました。私自身昨年度から県北方部センターの活動に関わらせていただき、センターの皆様とともに被災された方への訪問の際の様子やケアのあり方などについて相談させていただいております。センターの皆様のお話を伺っていると、まさに被災者の方々に寄り添った関わりを続けていることが分かり、頭の下がる思いです。センターのスタッフの皆様を始め、関係者の皆様には改めて敬意を表したいと思います。

大震災により福島県内では地震や津波に加え原発事故後の問題のため、多重または複雑な状況が作られました。また、これらの状況は避難や転居を含め二次的な問題を作り出したともとらえることが出来ると思います。私事で恐縮ですが、私は大学病院で緩和ケアチームの一員として活動しており、がんをはじめとする身体疾患に伴う精神的・心理的問題に対応しています。緩和ケアでは、患者さんの苦痛を身体的苦痛だけではなく、精神的、社会的な苦痛、そして「スピリチュアルペイン」(日本語に訳しづらいますが、生きることや人生の意味、死生観などに関する苦痛、とされます)といった全人的苦痛としてとらえることが重要だとされており、東日本大震災、特に福島県ではそれに引き続くさまざまな問題に直面した被災者の方には、まさに多面的な負担や苦痛が存在し、そのケアについても多方面からのアプローチが求められていると思われま。それゆえ、心のケアセンターで行っている活動はこれらのニーズに対応するための極めて重要な活動に位置付けられていると考えます。

現在まで、避難指示解除を受け県内外に避難していた市町村の方々の帰還が少しずつ進んでいます。しかしながら、個人、家族、地域、社会といった様々な段階での課題が存在し、帰還するかどうかの選択も非常に難しいものであることが推測されます。こういった状況に際して、被災者を主体とした生活や選択に寄り添ったケアが必要であり、心のケアセンターがこれまで行ってきた活動の中長期的な継続が重要なのだと思います。微力ではありますが、今後ともその活動に少しでも力になればと考えております。最後になりますが、ケアを提供する側の健康も重要です。活動されているセンターの皆様、関係各位の皆様自身の健康にも留意されたうえで活動を継続していただくことを願っております。

## 「それぞれの選択に寄り添う」

社会福祉法人白河市社会福祉協議会  
生活支援相談員 佐藤 初江

東日本大震災が発生してから、突然の避難を余儀なくされた避難者の方々の生活も、はや6年半が過ぎました。その避難生活も、段階的に避難指示区域が解除されて、今年は、富岡町や浪江町が帰還するなど、避難者の方々は今後の定住先の選択をしなければならない節目を迎えました。

避難指示区域が解除されたことにより、今後の定住先を故郷に帰還される方と、避難先で自宅を再建する方、復興公営住宅に入居される方、それぞれに今後の生活再建に向けて考えなくてはなりません。

長年住み慣れた故郷を離れ、避難先を十数か所も変えてきたという話も伺いました。「避難生活が納得できない」、「家があるのに帰れない」と涙を流しながら話されます。また、津波によって、「家も何もかも全て失った」と今後の生活に不安を抱えて、生活をされている方もいます。

私達は、少しでもその不安を取り除き、落ち着いた生活ができるように、訪問傾聴支援活動をしています。

高齢の方々は、やはり故郷への想いが強く「帰りたい」、しかし、若い世代の方々は仕事や子供の学校の問題、放射線量の不安を取り除くことはできず避難先に残り、高齢者だけが帰還するという世帯分離の問題も浮き彫りになってきています。避難先では、狭いアパートで話もしたくないと暗い表情ばかりだった方が、自宅に戻れるということで明るく笑顔で話されるようになりました。しかし、待ち望んで帰還をしても、以前のような生活には戻れず白河市に戻ってくる世帯もあり、帰還することへの困難さも感じました。

また、白河市も同じく被災地であり、津波の被害はありませんでしたが、葉の木平地区の崩落、市営住宅の全壊、個人住宅の損壊などと被害は大きく、仮設・借り上げ住宅への入居や県外へ避難された方もいるなど、避難元市町村のひとつでありながら、相双地区からの避難者の受け入れ先である避難先の市でもありません。

白河市には、双葉町民の仮設住宅と双葉町民以外の避難者及び白河市の避難者が入居する応急仮設住宅が建設されました。原発被害避難者、津波被害避難者、市営住宅からの避難者、戸建て住宅からの避難者と様々な方が入居されていて、支援物資、生活習慣、賠償金の違いなどから住民同士で妬み、苛立ち、喪失感と不安によるトラブルも多々あり、「いつ帰れるのか」、「何も無くなってしまった」、「家族もバラバラになってしまった」、「家は、再建できるのだろうか」という住民からの声に対し、傾聴に努め各関係機関へつなぎ、情報を提供し、少しでも

も不安が和らぐような支援に努めてきました。

再建への不安から、不眠となりうつ病が重症化し、自死も考えるようになってしまった方へ、ほぼ毎日訪問し情報提供や傾聴を続け、息子の所へ落ち着くことになった時には、涙を流しながら別れました。転居後も「あの頃が懐かしい」と近況を報告していただきます。

当初白河市には10市町村以上から避難されていて、単独市町村支援と異なり各市町村により情勢が違うため、情報収集と支援には避難元関係機関と専門職関係機関との連携が不可欠でした。しかし、相双地区の方への支援となると避難元社協や行政は、避難者の多い県北や県中地区に避難元事務所が設置されたので、どうしても県南地域は取り残された感じがあり、連携のもどかしさを感じていました。また、同じように避難者の方々も感じていたのではないのでしょうか。

少しでも安心して生活ができ、「この白河市に住んでよかった」と言われるように、これからも各関係機関と連携し情報を共有しながら避難者の方々に寄り添った支援をしていきたいと思えます。

## それぞれの選択により添う

元・社会福祉法人富岡町社会福祉協議会いわき支所  
統括生活支援相談員 佐藤 恵子

私は、東日本大震災による原発事故で避難を強いられた避難者です。今は無職ですが、以前は支援する側で仕事をしていました。支援される側と支援する側のどちらにも属した経験から、お話したいと思います。

東日本大震災から6年半が経ち、全住民が避難することになった町村も帰還困難地域を除いて戻れるようになりました。しかし、戻った人は多くはありません。「戻りたい」という思いは、嘘ではありませんが、いざ戻るとなると、戻って良いのだろうかと不安になります。医療環境はどうだろう、教育環境は十分だろうか、防犯はしっかりしているか…等、今住んでいる場所と比べてしまいます。もう6年も住んでいる所です。

避難先で今後も生活をしていこうと決めている人も多くいます。それでも、望郷の心は募ります。避難元に戻ると決めて、戻った人もいます。腹をくくって戻ってきたものの、自宅周辺に戻ってくる家はなく、これで良かったのか不安になります。まだ決めかねている人も少なくありません。自分の意に反して、生活が一変してしまい、何をどう整理して今後につなげたら良いのか決めるのに時間がかかるのは、あたりまえのことですが、「戻る」・「戻らない」の決断をしなければならぬ時が直に来ます。

どんなに良いと思う選択でも、もし別の選択をしていたら…と思うことがあり、気持ちが沈んだり、悔やんだりすることがあるかもしれません。そんな時、そっとより添っていてあげられる存在であったらいいなといつも思います。

『より添う』ことを考える時、『置かれた場所で咲きなさい』という言葉の軸にしています。この言葉は、渡辺和子著の本のタイトルになっている言葉です。私自身へ贈る言葉であり、私が見守る方へ贈る言葉でもあります。

『置かれた場所で咲きなさい』の『置かれた場所』を居場所と理解すれば、自分が置かれた今いる場所のことでしょうか。私は、あなたは、あの人は、どんな場所に置かれているのだろうかと思いを馳せます。『咲きなさい』と命令口調ではありますが、私には『咲いていいのだよ』優しく励まされているように聞こえます。この場所で花を咲かせて良いのだと安心するのです。

誰にも、花を咲かせる力があります。私は、この場所でどのように花を咲かせるのだろうかと思いを馳せると、嬉しく、ワクワクした気持ちになります。見守る方が、その場所でどんな花を咲かせるのだろうかと思うと、その方と一緒にいつか咲くだろう花を待ちわびることも楽しくなります。

さて、テーマである『それぞれの選択により添う』に話を戻します。「それぞ

れの選択」により『それぞれが置かれた場所』で「それぞれの花」を咲かせるために、必要なことをすることが「より添う」ことだろうと思います。何より「対象となる方と共に」を大切にしたいと思っています。

現在、支援を仕事としてはいませんが、これからも、日常生活の中で出会った方と共に置かれた場所で花を咲かせたいと思います。

## 「私」と「なごみ」

医療法人財団東京勤労者医療会代々木病院  
(精神科医師) 中澤 正夫

原発苛烈破損により、相双地区は精神科病院もメンタルクリニックも避難し、精神科無医村地帯になり、残された外来患者が困っているとの丹羽教授（当時）のSOSに応じ、矢部准教授（当時）のコーディネートで、スタッフを連れ相馬入りした時、私は74歳であった。その10か月前、心筋梗塞で死に損なったので「救援マニュアル」違反である。相馬は線量が低いこと、公立相馬病院に循環器内科があることをまず調べ、二本松出身の医局秘書以下、年配者を選んだ。その後は、「なごみ（相馬方部センター）」への支援という形で、今日まで、細々とした支援を続けている。それをさせているのは、贖罪感である。私の後半の仕事は「原爆被爆者のメンタルヘルス」（深刻なPTSD）であったので、放射線障害や原発の危険性について、よく知っているつもりであったが、何の「反原発運動」もしなかった。沈黙は「加害者」である。だから（現地の方には申し訳ないが）、最後の「良き働き場所」が出来たと思ったのである。幸い、前半の人生では、訪問活動や地域精神衛生運動に明け暮れ、「訪問」は手慣れていた。

支援を定期化してすぐにわかったのは、最大の被害は、「原発事故は、集落・近隣・家族、時には夫婦までバラバラにしている。辛うじて‘放射能対策はそれぞれの判断’でまともまっている」危うい姿であった。

「なごみ」に行き、よくわからなかったのは、なごみはNPO法人で、「ふくしま心のケアセンター事業」の「相馬方部センター」業務を委託されているという関係である。他の「方部センター」とは、かなり違った活動をしているということであった。その組織図が頭に入らなくて困ったが「年寄りボケ」を装って切り抜けた。

支援の要諦は「頼まれたことは何でもやる、何もない時は、仕事を自分で探す」である。なにも知らないから、はじめは、ああせい！こうしたら？と口うるさかったはずである。私が相馬について知っていたのは、相馬民謡と相馬事件だけである。「メンタルクリニックなごみ」の開設時の苦労は後になって知らされた。

私は、相馬藩の歴史から学び始めた。地域活動のイロハの「イ」である。薩摩藩などと並び、領主替えの無かった珍しい藩と知った。長い伝統と文化、誇り、郷土愛を育てている地と知った。それをいつも頭に置かないと支援はできないな！と思った。

「なごみ」のスタッフは、皆若く、よく働かし、よく学ぶ。ACTの先進地へ出かけ、また講師を招き、市民にもそれを公開した。もちろん、はじめは模倣に

終始したが、次第に相双地区になじむようにモデファイしていった。そのことが見ていてよく分かった。海外からの物心の支援もあり、次第に内外から過剰な注目と過重な期待が寄せられる様子を（内心ハラハラしながら）見ていた。中でも一番すごい、と思ったのは見学・研修・実習の無謀ともいえる受け入れであった。「教えることは、（さらに良く）学ぶこと」を実践していたのである。色々な考え方や意見を柔軟に受け入れていく姿勢は、とかく「シュレー；学派」に引きこもる精神医学関係者を驚かせた。私の師匠の一人である、故 西本多美江保健師の言「今のところ先生のやり方が一番いいから組んでいる、もっといい先生がいれば、すぐに乗り換える、それが住民に責任持つ保健婦の立場だ」を彷彿とさせた。

こうして「なごみ」は多くのことを学んでいったが、それ以上に多くの人を教育してきている。私も教育された一人である。どんな病気も「その人の生活」を知らなければ治すことはできない。要は、その人の「生活」をどこまで深く、かつ歴史性をもってとらえるかであろう。地元出身者が多かったので、その点はお手のものであった。

あれから6年たってしまっている。私の歳では、一年はあまりにも早く、かつ貴重である。あと何年支援が続けられるか、否、受け入れてもらえるかわからない。「なごみ」のメンバーも様変わりし、多くの自治体で帰還が始まっており、「なごみ」の出番はますます多くなるだろう。原発廃炉は手もついでいないし、帰村率は低く、もはや復興や復旧という一般概念はあてはまらない。そこで必要なのは復旧ではなく、新しい近隣づくりの手法である。それはまったく経験したことのないことである。その中で揺れ動く「生活」を支えなければ病気も治せないのである。その力と経験を「なごみ」は蓄積しつつあると思っている。

「なごみ」支援からかえった私は一週間ほど怒りっぽいらしい。相双行きは、私の生き甲斐になってしまっている。原発再稼働があろうと、ミサイルが飛ぼうと、平気な顔している首都圏の人を見るとイライラして来るのである。いまのところ、自ら気付き、コントロール出来ているが、それが出来なくなった時が支援の終了と思っている。（2017年10月15日）



## \* 基幹センター 菅原睦子（精神保健福祉士） ————— \*

当センターが開所して5年、私自身も専門員として4年となりました。業務推進部では、各方部の地域・活動状況を知り（定期巡回）、方部が円滑に活動出来るよう必要に応じて支援を行い（方部支援）、新任の研修を行うことを3本柱として掲げ、活動をしてきた1年でした。特に新任研修の枠組みを作り、実施出来たことは成果の一つではないかと思えます。

基幹センターとしては、企画課と事務所を共にして活動をする事が出来るようになり、最新の情報を共有して取り組める事が出来るようになりました。常に相談しながら基幹センターの活動を行う事が出来るのは、本当に心強いことです。

日々変化する地域や住民の方に合わせ、「ケアセンターらしい支援」ができるよう、取り組んで行きたいと考えています。

## \* 県北方部センター 畑山美奈子（精神保健福祉士） ————— \*

2016年4月「被災地で支援がしたい」という思いから地元新潟を離れ福島に赴いた。当時私は東京で働きながら東北の大学に通っていたが、多くの仲間と出会い、思い出がたくさんある東北で何かできることはないか。そんな時、ケアセンターの募集が目にとまった。6年目を迎えた被災地で今更何ができるのだろうという思いはあったが、自分のできることをやってみたいと思った。ケアセンターの業務は、仮設や復興住宅へ訪問する他にもサロン活動や支援者支援など活動は多岐であり、また、他職種同士での活動に戸惑うことも多かった。1年やってきて感じたのは、福島の方は県外出身の私には計り知れないものを抱えて生活してきたということである。支援者としてこれからも真摯に向き合いながら関わり続けていくこと、そして他機関の支援者の方とも顔の見える関係を構築し、支援を続けていくことを大切にしていきたいと思う。

\* 県中・県南方部センター 栗石真実（臨床心理士）—————\*

今年度、新任職員として県中・県南方部センターへ入職し、気づけばあっという間に1年が過ぎていました。復興公営住宅への転居や仮設住宅供与期間の終了など、地域状況が日々変化していく中で、自分として組織として何ができるのか、悩みながら活動を行っていました。その中で、アルコール関連問題に関する活動に多く参加する機会をいただけたことは、自分にとっても大きな経験になったと感じています。

次年度は様々な活動を通して積み重ねたものを活かしながら、自分なりの目的を持って支援にあたることができればと思います。

\* 会津方部センター 伊藤文枝（保健師）—————\*

2016年、会津方部センターは保健師3名、看護師1名でスタートし私は2年目の活動となった。

職種補完の目的で基幹センターから精神保健福祉士、臨床心理士等の職員の派遣を受け個別ケースの助言や研修会の講師等多方面からの見立てやアドバイスで「多職種チーム」で行なう協働支援を体験し貴重な学びとなった。

活動の中で、震災前の生活が忘れられず、また新しい環境にも慣れず不安な中で生活されている方々の支援を通して、優位な個人差を理解しより柔軟な対応が求められていると感じた。

避難元市町村や関係機関と情報共有や同行訪問・相談等を行い、関係性を良好にすることの活動を大切に少しずつ積み上げてきた。「人を変えられるのは人である」と私は思っているので、少しのことでもコツコツ積み上げ、どのような変化にも対応できるように心がけていきたいと思う。

## \* 相馬方部センター 米倉一磨（看護師） ————— \*

今振り返ると2016年度は、相馬方部センターの存在意義が問われた年度であったと思います。南相馬市小高区や年度末の飯舘村、浪江町の帰還に向けて支援者の連携を深める必要がありました。行政をはじめ、様々な支援団体が組織という枠組みを超えながら、一人の支援者として帰還をどう考えるか、ケア会議や研修会を通じて共有され団結力が高まったといえます。ある時、一人の支援者から「なごみ（相馬方部センター）は市民権を得たのではないか」と言っていたことがありましたが、まさに地域で心のケアをする組織が受け入れられてきた証だと感じています。これからも住民に愛される組織を目指していきたいです。

## \* いわき方部センター 鴻巣泰治（精神保健福祉士） ————— \*

2016年4月から新規採用職員ながらいわき方部センター業務課長として赴任いたしました。一年間という短い期間でしたが、スタッフと各関係機関の方々に支えられ仕事をこなせたことに感謝申し上げます。

いわきの今を肌で感じながら、被災された方々の一助になればとの想いで、考え行動した一年でした。

振り返ると、自分のふがいなさや不全感に苛まれます。「私は役に立ったのだろうか」「邪魔にはならなかっただろうか」と、自問自答を繰り返します。そこには震災から続く避難生活があり、日々悩みや問題に向き合っている被災された方々の日常がありました。

前例の無い帰還という動きの中で、新たな課題が目前に迫っています。私は異動の為にいわき方部センターを後にしましたが、今後も出来る範囲で出来ることを続けながら、被災された方々に向き合っていきたいと想っています。



# ふくしま心のケアセンター 新任研修

平成28年度 活動報告会(平成28年12月9日)  
基幹センター 業務推進部

1

## 報告内容

- I. 業務推進部の役割
- II. 新任研修の活動報告
- III. 今後の展望

2

## I. 業務推進部の役割

1. 定期巡回
  - ・ 方部の地域状況と活動状況の状況把握
2. 方部支援
  - ・ 方部が円滑に業務を遂行するための応急的支援、補完的支援等
3. 新任研修
  - ・ 専門員としての認識、知識技術の明確化と研修
4. その他
  - ・ 「県外避難者心のケア事業」、「フェイスシート」、「15市町村の動き及び支援状況のまとめ」

3

## II. 新任研修の活動報告

活動背景

4

## III. 新任研修の活動報告

活動目的と活動内容

5

## III. 新任研修の活動報告

心がけている3つこと

新任職員の  
主体性

新任職員の  
ストレングス

業務推進部の  
第三者性

6

## II. 新任研修の活動報告 「新任職員到達目標チェックリスト」

1. 基本業務
2. 相談業務の基本姿勢
3. 個別支援
4. 集団支援
5. 他職種連携・チームワーク
6. 地域連携
7. セルフケア

「専門員」としての専門性

7

## II. 新任研修の活動報告 研修会開催

### 【新任研修会】

チェックリストの「個別支援」項目に基づき実施

1. 訪問支援方法(5月)
  - ・ 訪問前、訪問時、訪問後の手順等
2. 記録の書き方(7月)
  - ・ SOAP
3. スクリーニング方法(9月)
  - ・ PHQ-9、K6、AUDIT、M.I.N.I.「自殺の危険」
4. 振り返り(1月)

8

## II. 新任研修の活動報告 OJT

### 【新任職員と業務推進部との組み合わせ】

- ・ 同職種...PSW×PSW、CP×CP
- ・ 異職種...CP×PSW

### 【実際のOJT】

- ・ 支援前...訪問、事業実施前の入念な打ち合わせ
- ・ 支援時...「やってみせる」「やっているところを見る」「一緒にやる」
- ・ 支援後...振り返りと見立て、方針の確認、記録の確認。

新任職員ができていないことよりも、すでにできている事や努力などの「強み」を認めて、学び合う姿勢

9

## III. 今後の展望

1. OJTを中心に据える
  - ・ 基幹センターがすべての新任職員と同行訪問する
2. 強みを活かしつつ、チャレンジを応援する
  - ・ 新任職員の経験、職種の専門性といった既存の強みを活用してもらおう(職種のアイデンティティーの充足)
  - ・ 足りない部分はやりながら研修する(専門員のアイデンティティーの育成)
3. 人材育成の時間を確保する
  - ・ 新任職員とOJTを行う職員の時間的余裕を確保する
  - ・ 「広く浅く」よりも、「狭く深く」を優先する(数を決める等)

10

しなやかに、ねばり強く...



11



## 復興公営住宅への関わり

県北方部センター

1

## 県北管内の復興公営住宅の状況

- 県北管内の復興公営住宅の整備状況…全19か所  
 福島市:7か所(475戸)    桑折町:2か所(64戸)  
 二本松市:4か所(346戸)    川俣町:2か所(120戸)  
 本宮市:3か所(61戸)    大玉村:1か所(67戸)

※平成28年12月現在

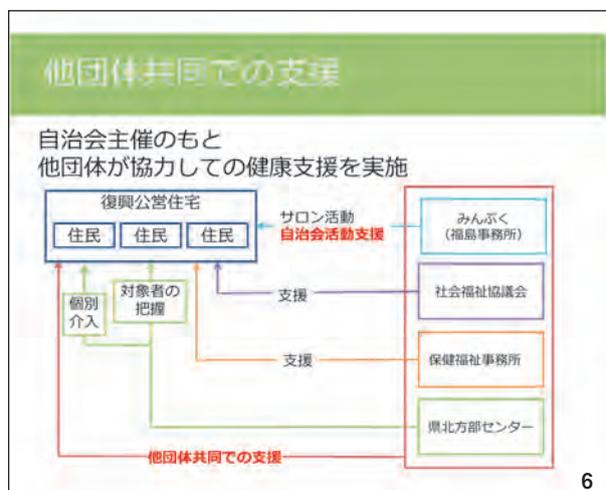
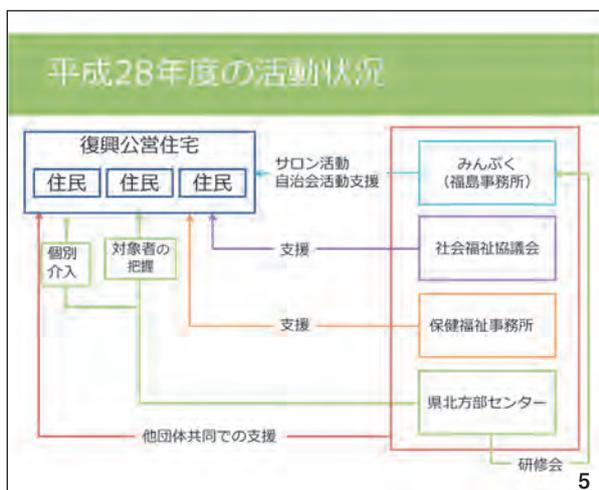
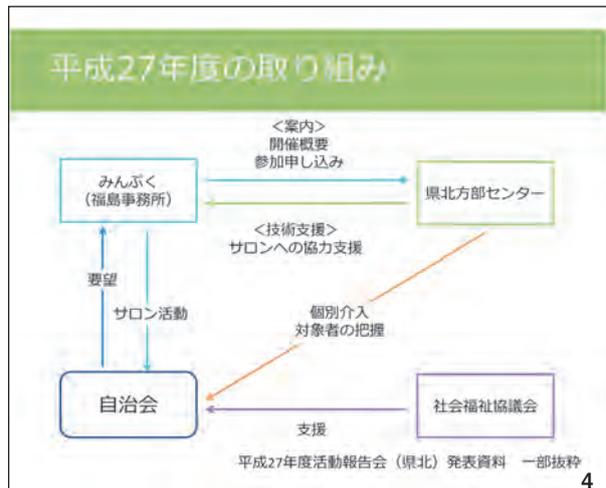


2

## 飯坂団地健康体操教室への関わり

- 復興公営住宅の集団への関わりは、昨年度末の企画から参加し、県北方部の新たな事業であった。
- 支援目的：自治会が自主決定し、自主開催が出来るように支援する。
- 今後の対応について

3



### 他団体共同での支援 | 開催概要

日時：第1～第4月曜日 9：00～健康相談  
9：30～体操開始（ラジオ体操第1・第2）

場所：飯坂団地集会所

内容：①相談ブースを設け、血圧測定と体調等状況確認と相談を行う。

②要望に応じて講話を行なう。  
「睡眠」や「免疫力」について実施。

③関係団体との情報共有




7

### 他団体共同での支援 | 役割分担

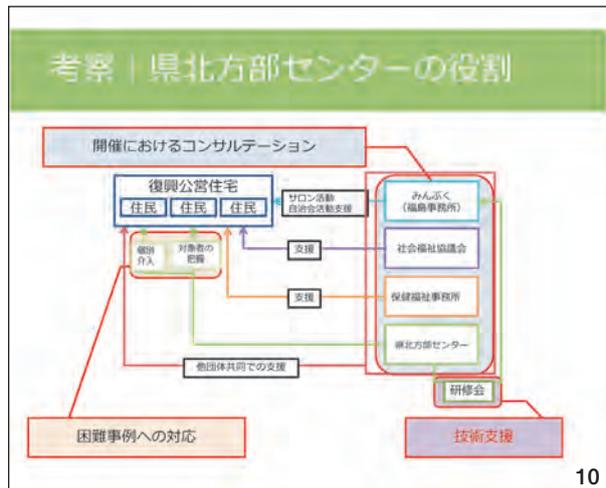
支援団体	役割	参加頻度
みんぶく	窓口	毎回参加
福島市社会福祉協議会	体操の実施 その後個別訪問	毎回参加
東北保健福祉事務所 健康増進課	健康相談 レクリエーション 健康講話 (フィジカルヘルスについて)	1回/月（第3月曜日）
県北方部センター	健康相談 健康講話 (メンタルヘルスについて)	1回/月（第1月曜日）

8

### 他団体共同での支援 | 経過

時期	出来事	県北方部センターの対応
平成28年2月15日	みんぶく職員より相談「自治会より健康体操の要望」	他団体を交えての支援を提案 みんぶくが主導しての打合せの提案
平成28年2月18日	みんぶく・福島市社会福祉協議会・県北方部センター3者での打合せの開催	現在までの集団支援の実績 要望に対する対応可能な範囲を説明
平成28年4月22日	自治会役員・支援団体での打合わせを開催	
平成28年4月25日	初回の健康体操教室開催 ※以降4回/月の頻度で開催	健康相談を実施 1回/月の頻度で支援
平成28年9月27日	自治会の自主開催に移行するための打ち合わせを開催	自治会の自主開催の意思確認と終結 に向けての支援の検討を行う。
現在		自主開催に向けて 血圧の自己測定を促し

9



### 今後の対応について

当初、福島市社会福祉協議会や東北保健福祉事務所と共同での支援を行ってきたが、体制の変更が出されている。

当方部センターは何が出来、何が出来ないのかを伝えつつ、住民が困らない対応が必要である。また、住民に寄り添い、切れ目の無い支援を行うために、当方部センターの一貫した体制のもと、対応を行っていきたいと考える。

11

### 県中・県南方部センター活動報告

- 今年の4月からの約8ヵ月強、県中・県南方部センターでは様々な活動を行ってきました
- たとえば個別支援の中では…
  - 握力測定を行う
  - SST（社会技能訓練）を行う
  - 陶芸を行う
 といった、専門性を活かした様々な工夫がなされました

これらはいずれも対象さんがやりたいこと・できることに目を向け、心理面だけでなく身体面からの視点も大切にした支援でした

1

### 県中・県南方部センター活動報告

- さらに、方部として様々な事業および事業協力も行ってきました
- 本日の活動報告会に向けて、何を報告するかを方部内で検討しましたが、それらの活動はいずれも素晴らしく、また、それぞれの担当者による思いもあり、絞ることができませんでした
- そこで本日は、それぞれの活動をそれぞれの担当者から報告いたします
- それではしばし、お付き合いください

2

### 川内村精神障がい者デイケア

- 概要：東日本大震災以前に活動していた、精神障がい者デイケアを今年度より再開
- 対象者：川内村にお住まいの精神障がいをもつ方
- 運営職員：川内村保健師2名、結いの里職員1名  
ケアセンター職員2名
- 目的：日中活動の場・仲間との交流の場を提供
- 場所：川内村保健福祉医療複合施設ゆふね 他
- 実施日：平成28年9月～平成29年3月まで月1回

3

### 内容

- 9月：ミーティングとレクリエーション
- 10月：芋煮会
- 11月：スポーツ
- 12月：クリスマス会
- 1月：新年会(書き初め?)
- 2月：節分
- 3月：ひな祭り  
今年度の振り返り

4

### 福島の秋と言えば芋煮会！！

美味しくできあがりました！



できあがるまで、外でのびのび体操…

みんなで具材を切って…

5

### デイケアの皆さんの感想

- 久しぶりに集まって活動できて嬉しかった
- みんなで、色々な事ができて楽しかった
- 外で楽しく運動して、美味しい芋煮を食べられて良かった
- 色々なスタッフと話ができ嬉しい

6

### ケアセンターの役割

地域に住む利用者の生活のために…

- ・ 仲間が支える環境づくり
- ・ 安心した時間を過ごせる環境づくり
- ・ 「やってみたい！」を共に考える
- ・ 「ためしにやってみる」を後押し
- ・ 「うまくできなかった…」を支える
- ・ 利用者の頑張りや努力をきちんと伝える

＊専門職の視点を持ち、利用者と関わる  
＊視点を他のスタッフと共有する

7

県南地域で個別支援をしている方への  
地域交流、生きがいとなる活動支援  
～陶芸の集い「こころあたたか♡陶芸教室」～

それは、ある一人の個別支援をして  
いる方との出会いから始まった！  
現状把握

「俺、陶芸やらやる！昔、妻の山から土持ってきて焼いていた！」  
「サロンに行っても、高齢者が多くて、話が合わぬし、サロンで陶芸やってんの？」  
「日中やること多い、テレビに挨拶するようにした」

その時担当者は思った…

県南地域の中へまだ  
まだ飛び込んで行け  
ない方が多いかも

県南地域の社会資源  
を利用しながら、い  
きいきと暮らせるこ  
といいなあ

既存のサロンに  
参加しにくい方  
もいるのかも

県南地域での交  
流のきっかけが  
ないのでは？

この方を中心に地域  
を巻き込んだ支援が  
できないかな

陶芸から始まる支援  
も可能か？  
そこから継続的な支援  
ができないかな

8

目的

国から始まる亀田への支援が住民主体の健康づくり(地域づくり)

震災と原発事故による避難から5年が経過したが、避難者の生活再建は未だ途上にある。県南地域で個別支援をしている方々は、住宅を購入、建築し県南地域を生活の場と決めた方、応急仮設等住宅にて5年間長い間過ごす方などさまざまであるが、それぞれ地域との交流が少なく、引きこもりがちに過ごし、趣味活動を再開している人は少ない。

そこで、交流する場を設け、一人一人が豊かで活力ある生活ができるよう支援する。

- 実施日時 (平成28年3月より活動開始)
  - 1回目：平成28年3月25日 (昼食、こころのままに制作)
  - 2回目：平成28年7月2日 (昼食、完成披露、講評会、制作)
  - 3回目：平成28年9月9日 (昼食、完成披露、講評会、ランブレード制作)
  - 4回目：平成28年10月28日 (昼食、完成披露、講評会、制作)
- 場所：白河市 アートまなべ(鹿島焼) 講師：真鍋秀子先生
- 対象者：
  - 県南地域(須賀川市も含む)で個別支援をしている方々
  - ※参加者避難元自治体内訳  
南相馬市2名、浪江町1名、大熊町1名

双葉町1名も参加を希望していたが、白河市から郡山市内の復興公営住宅へ転居となり、県南地域での活動に参加できず、戸別訪問時、陶芸制作機会を設け、希望実現となった。郡山市内においても陶芸から始まる個から集団への支援、住民主体の健康づくり(地域づくり)を模索中。

9

～こころのままに～  
作品制作の様子

10

11

白河市民も参加  
～陶芸制作後のミニミニ演奏会～「逢」

12

## タッピングタッチ



指先でタッチすることを基本としたシンプルなケアの手法です。

ケアし合うことで、心身ともに健康であらうとする内なる力に働きかけます。不安、緊張、痛み、ストレス反応を和らげ、ケアし合うことでよりよいコミュニケーションと関係性の改善にもつながります。

13

## タッピングタッチ



14

## タッピングタッチ



気持ちよかった。

あったかくなった。

眠くなった

肩はってたのがラクになった。

力もいらなし、思ったより簡単ね。

いやされる

15

## タッピングタッチ



ありがとう。

さっぱりした

気持ちよかった。眠くなった。



16

## 男遊クラブ

- ・ 目的 : 県南地域に避難している男性を対象に、健康相談をはじめ、自分らしい生活の再建のためのプログラムと交流の機会を提供する
- ・ 対象者 : 相双地域から県南地域等に避難されている男性
- ・ 日時 : 毎月 第3水曜日 10:00~12:00
- ・ 会場 : 白河市産業交流プラザ 人材育成センター

17

## 男遊クラブ



手作り弁当でお花見

体力測定

18

### 男遊クラブ



陶芸



白河市内町歩き



19

### 男遊クラブ





運動～スクエアステップ～




20

### 講師派遣等について

- **各社会福祉協議会**（生活支援相談員向け）
  - 双葉町：「ゲートキーパー養成研修」「**対人援助のためのコミュニケーション**について」といった内容の講話を実施
  - 郡山市：3回1シリーズで実施。SOAPを参考にした**情報の整理の仕方、アセスメントから支援計画の立て方**についての講義およびグループワーク
- **ゲートキーパー研修**
  - 須賀川市：須賀川市役所**ほぼ全職員**（約200名）を対象に実施
  - 石川五町村合同事業：石川五町村内の民生委員等を対象とし、2回に分けて**基礎編、応用編**として実施

21

### 講師派遣等について

- **その他の講師等の活動**
  - 双葉町：「**認知症の理解と対応**」…民生委員対象として
  - 大熊町：「心の元気を育てる講座」…一般住民や社協職員を対象として、**体の面からの心の健康**に関する講話等
  - 田村市：「**こころの健康教室**」…一般住民や統合失調症のご家族などを対象として、**統合失調症の理解と対応**について
  - 田村市：「**10代の心を守る事業**」…中学生およびその保護者を対象とした講話
    - 子どもには「**ネガティブな感情とうまくつき合う方法**」について
    - 保護者には「**思春期の子どもとの関わり方**」について

22

双葉町社協さん対象研修会の風景  
この日はゲートキーパー研修に合わせ、  
タッピングタッチを行いました



郡山市社協さん対象研修会の風景  
アセスメントについての講義でしたが、  
とても真剣にご参加いただきました



23

石川五町村ゲートキーパー研修の様子  
二回に分けて、傾聴の基礎から踏み込んだ対応まで  
じっくり学びました



田村市こころの健康教室  
統合失調症への理解と対応に関して、  
ご家族や当事者、支援者と幅広い対象  
とした講話を行いました



24

**認知症の理解と対応について**  
民生委員を対象として、講話や対応のロールプレイ、実習を行いました




**大熊町「心の元気を育てる講座」**  
講話やゲーム、運動などを通して楽しみながら心の元気について学びました



25

### 自殺予防セミナー『心の健康講座』

福島県の自殺者の現状を周知すること、「笑い」のもつ健康効果により参加者の心身の健康度を高めることを目的に、今年度は県中地区と県南地区の2回開催。対象は県中県南地域の居住者。

【県中地区自殺予防セミナー】

9月6日（火）郡山市ミューカルがくと館 大ホール

第1部：情報提供「福島県の自殺の現状と対策」  
講師：県中保健福祉事務所 遠藤 美咲 保健師

第2部：講演「笑い与健康」  
～笑ってストレス解消！生活習慣予防～  
講師：福島県立医科大学 疫学講座 大平 哲也 先生

参加者数：42名



26

### 自殺予防セミナー『心の健康講座』

【県南地区自殺予防セミナー】

10月17日（月）白河市 新白信ビル イベントホール

第1部：情報提供「福島県の自殺の現状と対策」  
講師：県南保健福祉事務所 伊藤 真衣 保健師

第2部：講演「笑い与健康」  
～笑ってストレス解消！生活習慣病予防！～  
講師：福島県立医科大学 疫学講座 大平 哲也 先生

参加者数：69名




27

### 自殺予防セミナー『心の健康講座』



28

### 方部連絡調整会議

■日時：平成28年10月7日（金）13:00～16:00

■会場：郡山市音楽・文化交流館（ミューカルがくと館）大ホール

■目的：  
（1）ふくしま心のケアセンター（県中・県南方部センター）の活動の周知  
（2）復興公営住宅を中核に、支援にかかわる関係機関との連携強化（各機関の支援の現状と課題の理解、問題の共有）  
※ 担当部署の管理職を招聘する。

29

■内容

- ① ふくしま心のケアセンターの支援活動の現状と課題
- ② 各機関から支援活動の現状と課題について報告、課題の共有
  1. 福島県避難地域復興局 生活拠点課
  2. 福島県社会福祉協議会 避難者生活支援・相談センター
  3. 郡山市社会福祉協議会
  4. 特定非営利活動法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会（郡山）
  5. 双葉町健康福祉課
  6. 須賀川市社会福祉協議会
- ③ 「ふくしま心のケアセンターへの期待」等
  1. 福島県県南保健福祉事務所
  2. 福島県県中保健福祉事務所
  3. 公益財団法人 星総合病院附属 星ヶ丘病院
  4. 福島県保健福祉部 障がい福祉課
- ④ まとめ：前田副所長

30

### 方部連絡調整会議 活動の周知・連携強化

31

### 方部連絡調整会議 振り返り

- 出席者の会議への感想、期待が二分していた。  
「全体的な話を聞いて良かった」-「具体的な話を聞いて良かった」  
「課題を解決したい」=「情報交換の場」
- 医療機関からは今後につながる言葉をいただいた。
- 「ふくしま心のケアセンターには何が出来るのか知りたい」という意見については、『サービスのお品書き』のようなものが提示できるとよい。

32

### アルコール関連問題に関する勉強会

<概要>

- ◆日時：平成28年7月14日(木) 13:30~16:00
- ◆会場：郡山市音楽・文化交流館（ミュールがくと館）
- ◆対象者：生活支援相談員、社会福祉協議会職員、自治体職員、県中・県南保健福祉事務所職員、その他、被災者支援に携わっている方
- ◆目的：(1)アルコール関連問題に関する基礎知識の習得  
(2)アルコール関連問題に関する対応法の習得

33

### アルコール関連問題に関する勉強会

<内容>

(1)大島クリニック理事長・院長 大島直和先生による講演  
テーマ「アルコール使用障害とその支援」

アルコール使用障害の基礎的内容を非常にわかりやすく教えて頂きました。

生活支援相談員のみなさんを中心に33名の参加者が集まりました。

34

### アルコール関連問題に関する勉強会

<内容>

(2)ディスカッション  
講演を聞いての質問や感想、日頃の支援活動の中で困っていること等を自由に出して貰い、ディスカッションを行いました。

多くの質問・意見が出され、活発なディスカッションとなりました！

35

### アルコール関連問題に関する勉強会

<参加した皆さんの感想>

- アルコール使用障害について何も知らなかったが、テストの方法や症状、対処方法などたくさんの知識を得ることができました。
- ディスカッションでは実際に困っている対処方法について知ることができて良かった。
- 対象者と信頼関係を築いてきたのは間違いじゃなかったと再確認した。
- とても分かりやすかった。もう少し早く聞いていれば対応が違っていたのではないかと思う事例がありました。

36

## アルコール関連問題に関する勉強会

### <振り返り・今後に向けて>

- ディスカッション時に「支援者としては、アルコール依存の人が飲む原因を知りたい」という質問が出され、その点について大島先生より「今回の勉強会では断酒会やAAから当事者を招いて話してもらうのが良いのではないかと」というご助言をいただいた。
- 全体を通して参加者の満足度も高く、次回につながる勉強会になったと思われる。

37

## 市民講座 概要

日時：平成28年12月8日（木）14:00～16:15

会場：郡山市音楽・文化交流館（ミュールがくど館）大ホール

目的：

- ① 一般住民の心の健康の保持・増進と健康な地域づくりに資すること
- ② ストレスを感じやすい状況下においても対処しつづけるスキルを学ぶ
- ③ タッピングタッチの演習を通し、心身共にほぐれる体験をしてもらうこと

参加者数：49名

38

## 市民講座 内容

### 第一部

講 話：ストレスとうまくつき合うコツ講座

講 師：岩沢主任専門員

### 第二部

演 習：タッピングタッチ

講 師：渡部専門員

タッピングタッチ認定インストラクター



39

あなたの「ホッと一息」をお手伝い

## 「ふくここ」

～ふくしま心のケアセンター 県中・県南方面センターだよ～

The flyer contains the following sections:

- 【シワズ建築】冬のストレス解消法（スタッフ編）**: A section for staff members on stress relief during winter.
- 【特別】ストレスとうまくつき合うコツ**: A special section on coping with stress.
- 【タッピングタッチ】**: Information about the tapping touch practice.
- 【お問い合わせ】**: Contact information for the center.

40

あなたの「ホッと一息」をお手伝い

## 「ふくここ」

～ふくしま心のケアセンター 県中・県南方面センターだよ～



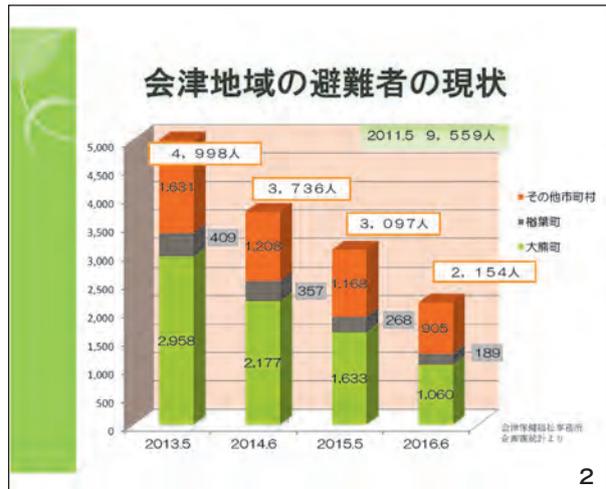
41

平成28年度  
ふくしま心のケアセンター活動報告会

**大熊町ぐっちーcafe  
～取り組みの経過～**

会津方部センター  
平成28年12月9日

1



**会津地域の特徴（現状分析）**

1. 主に避難している大熊町、楢葉町の復興の動きに差が出始めている。
2. 役場体制の変化による専門職の不在、避難者の分散に伴ってカバーする地域が広範囲となってきた。
3. 会津管内の仮設住宅の縮小、集約化生活再建や復興公営住宅への移住など。

3

**平成28年度 重点目標**

1. 各自治体で帰還等に向けた動きが出てきているなか、会津で生活を続けている住民への支援体制を充実・強化する。
2. アルコールに対する正しい知識普及・啓発を行うことで、自殺予防に繋げる。
3. 住民支援にあたっている自治体等の職員に対して、関係機関と連携しながら支援を進める。

4

**平成28年度 事業計画**

個別支援	訪問・相談・電話（新規・継続） 事例検討会
集団活動 （講話実施）	応急仮設住宅及び復興公営住宅健康相談会 サロン協力（ならは・双葉・小法師） 会津我家笑顔めし みんなく関連イベント
支援者支援	ぐっちーcafe（毎週水曜日・大熊町役場） リフレッシュタイム（隔月） 支援者向け研修会（12月）
その他	市民講座（南会津管内、会津管内） 関係機関の会議（ケア会議・連携会議など） 機関紙発行（七転び八起き） 方部内研修

5

**平成26年度ぐっちーcafe立ち上げ**

【企画背景】

- 今後の見通しへの不安を持つ住民への対応による精神的な負担は、無意識に蓄積され、身体症状となって現れやすい。
- 業務や住民対応に追われる職場から、一時的に離れリセットできる環境が必要。
- 年度当初より企画を進め、町との打ち合わせ、準備等で7月からの開催となった。

6

**【目的】**  
 支援者の息抜きやリラックスできる環境を提供して、ストレス解消や気分転換を図り心身の健康が維持できる。

**【対象者】** 大熊町役場内で働く方。

**【開催日時】** 毎週水曜日 12:00~13:00

**【内容】**

- ・ハーブティーやコーヒーなどを準備し、息抜きやリラックス出来る環境を提供する。
- ・血圧測定などの健康相談にも対応する。
- ・会津方部センター専門員2名が交代で対応。

7

**ぐっちーcafé：健康相談や談話の様子**



★オルゴールなどのゆったりしたBGM  
 ★ぐっちーcaféオリジナルブレンドのハーブティーで、机を離れてちょっと息抜き・・・

8

**平成26年度の事業評価と平成27年度の開催**

＜平成26年度の事業評価より＞

- ・職員の息抜きの場として継続して欲しい。
- ・お昼休みも窓口対応をしている職員がいる開催時間を延長できないか。

＜平成27年度＞

- 町からの要望を受け、事業の継続。
- 開催時間の見直し。

9

**平成28年度新たに企画したこと**

①個別相談の実施  
 ほっと息抜きできる場の他に、個別相談に対応できるよう、別室を確保した。

- ・職員2名体制で対応。
- ・電話での事前予約も可能にした。

②リフレッシュタイム  
 職員の要望を受け、ストレッチやハンドケアなどのメニューを実施する。

- ・年5回、昼休みの30分

10

**ぐっちーcafé：経年の変化**

	事業内容	年間参加者数の推移 (参加者数/実施回数)
平成26年 7月～	・12:00～13:00 ・健康相談への対応	174人/ 37回
平成27年度	・11:30～13:30 ・健康相談への対応	248人/ 49回
平成28年 ～11月末	・11:30～13:30 ・健康相談への対応 ・ <b>個別相談の実施</b> ・ <b>リフレッシュタイム実施</b>	143人/ 39回 (リフレッシュ含む)

11

**事業実施にあたり関係部署との連携**

**【関連部署・機関】**

- ・大熊町総務課、福祉課
- ・講師：福島県相談支援専門職支援チーム会津
- ・協力：3.11被災者を支援するいわき連絡協議会「会津みんなぶく」

**【具体的な連絡調整】**

- ①総務課で毎週水曜日、全職員PCで周知。
- ②住民対応窓口につくここティッシュを設置し、補充を兼ねぐっちーcafé開催の声かけをする。
- ③年度末の総務課・福祉課との事業振り返りと、年度当初の打ち合わせの実施。

12

**今年度もぐっちーcafe  
OPENします！**

ぐっちーcafeは大崎町児童・大崎町社会福祉協議会の健康の増進を  
目的とした「高齢者の身体機能向上（PKE）」のcafeです。  
一人でも、時間を潰してもOKです。  
今年度、新たにリフレッシュタイム、リラクゼーションと個別相談も  
始めます。お休みにぴったりとみ～んにお越し下さい。（個別相談は理学療法士も  
可です。要予約：0242-23-4042）

**日時 毎週水曜日  
11:30～13:30**

**場所 2F ほっとルーム**

リフレッシュタイム  
高齢者の健康と生活  
12:30～13:00

個別相談  
健康相談

ふくしまのケアセンター 健康増進センター TEL:024-23-4042

13

**ストレッチで  
体と心が若返る！**  
～たった30分でこんなに！～

日の疲れ 肩こり 腰痛  
気分転換

**日時： 6月15日（水）  
12:20～12:50**

**場所：大崎町役場 2階 ほっとルーム**  
**講師：倉澤中央病院 リハビリテーション科  
理学療法士 石渡 智之 先生**

※参加費0円です！

※中学生不可です！  
※中学生以上大歓迎！

14

**リフレッシュタイム**



理学療法士の先生を講師に、ストレッチを行いました。

15

**リフレッシュタイム**



ハンドケアは笑いに溢れ、「時間が短かった！」「家族にやってあげよう！」という参加者も多かった。

16

**ぐっちーcafe 各参加者数  
(平成28年11月末)**

活動名	回数	延人数
ぐっちーcafe	36	111
リフレッシュタイム	3	32
個別相談	11	11

17

**ぐっちーcafeの感想**

体操、ハンドマッサージがすごく良いです。特にハンドマッサージは、下手だけどお互いにやり合う、ということがとても楽しかった。良い雰囲気だったよね、と係の中でも話題になりましたよ。

おいしいお茶を頂きながらの、おしゃべりが楽しいです！色々話してリラックスに繋がっていると思う。

18

## 事業評価

- ①息抜きの場として浸透している。
- ②役場体制の変化に伴い、職員が異動し参加者が減少している。
- ③個別相談の場を設け、活用出来た。
- ④町と課題を共有し、職員が参加しやすい事業内容にした。
- ⑤「リフレッシュタイム」は個人の息抜きの他、職員同士の交流の時間としても良い機会になっている。

19

## 今後に向けて

- ①町と連携をとりながら、今後も町の動きに合わせて実施していく。
- ②要望のあるリフレッシュタイムの内容を工夫する。
- ③リピーターの方も継続でき、初めての方も参加できる工夫や取り組みをしていく。
- ④個別相談を継続する。

20

ご静聴ありがとうございました



21

## 男性の集いと若者支援 ～集団活動を通して～

平成28年度ふくしま心のケアセンター活動報告会  
相馬広域こころのケアセンターなごみ（相馬方部）

相双地域の精神科医療・保健・福祉の  
復興・新生に貢献します。

私たちは、東日本大震災と原発事故後の相馬地域の復興を支援し、地域で生活する  
精神科医療受療者・介護者・家族・地域住民のこころと健康をより  
回復することを目的とし、活動しました。

特定非営利活動法人  
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

1

## ふくしま心のケアセンター事業 （相馬方部センター）

1. 訪問活動
  - ・ 地域のニーズに応じたアウトリーチ活動
2. 集団（サロン）活動
  - ・ 市町村や社協主催のサロンへの協力
  - ・ 南相馬市の仮設住宅・借り上げ住宅サロンでの健康教育
  - ・ 若者のグループ活動（ピアサポート、居場所作り）
  - ・ アルコール関連問題当事者の会、アルコール依存症者のサロン




2

### 3. 支援者に対する支援

- ・ アルコールやメンタルヘルスをテーマとした啓発活動、研修会や講演会の開催
- ・ 職員に対するカウンセリング等
- ・ 同行訪問、ケースの相談
- ・ 福祉事業所との事例検討会
- ・ 震災遺児とその家族への支援
- ・ 南相馬市の母子事業への協力（健診事後相談会、幼稚園巡回相談、母親の相談会等）

3



# 男性のつどい

すべての写真の使用について同意を得ています。

4

## 相双地域の現状

1. 震災後の避難によってコミュニティが崩壊
2. 集団生活（仮設住宅）によって潜在的な問題が表面化
  - ・ アルコール関連問題、DV、その他迷惑行為
  - ・ 新しい人間関係の中で本人も周囲も困惑、どう関わっていいのかわからない

5

## 地域の中での中高齢男性

1. サロンに、なかなか男性は集まらない。
2. 仕事以外のすること（出来ること）が無い。  
あるいは震災によって仕事も喪失。
3. 迷惑をかけすぎた孤立と、  
誰にも迷惑をかけない孤立。

6

### 「男性のつどい」の成り立ち

- ・訪問対象者の比率  
男性>女性 独居>同居
- ・抱えている問題 アルコール・寂しさ・
- ・対象者が口にする言葉  
「何もすることがない」「暇だ・・・」

↓

なんとかしなければ・・・でもどうやって??  
そうだ！本人達に聞いてみよう！

平成27年11月に第1回の集まりを持ちました。

7

### 男性のつどい紹介

1. 目的
  - ・対象者の日中の居場所や活動の提供
  - ・社会参加意欲を引き出すこと
2. 開催日 毎月1回
3. 対象者  
アルコール関連問題や震災の影響によって就労や生活に困難があり、社会的に孤立している男性
4. 内容  
参加者の意向によって決定

8

### 今年度の活動内容

月	内容	参加人数	スタッフ数
4月	お花見（弁当作り）	9	6
5月	ハイキング→雨天のため室内活動	4	6
6月	餃子作り	4	6
7月	バーベキュー	5	8
8月	夏祭り（流しそうめん）	5	6
9月	釣り→雨天のため室内活動	5	5
10月	芋煮会	7	6
11月	山登り	5	6
12月	そば打ち（予定）		

9

### 「男性のつどい」の様子

10月6日 男の芋煮会を開催しました



10

### 男性のつどいのメンバー（相馬方部調べ）

対象者12名（1回以上参加した方）

- ・70代3名、60代6名、50代3名、40代以下0名
- ・被災状況  
津波被害1名、原発被害5名、なし4名、他2名  
9名が避難の経験あり
- ・疾患の内訳  
アルコール依存症8名、アルコール依存症疑い1名、統合失調症1名、双極性障害2名、なし/その他0名

\*平成28年11月現在

11

### 集団活動の意味

- ・共通の話題（仕事、お酒、現状）
- ・自慢話（運転免許、断酒、参加回数）
- ・調理の経験
- ・スタッフの姿を見て
- ・みんなが行くなら。。。。

12



**若者支援**

**チャレンジクラブ**

13

### 相双地区の就労環境

- 働く人口、職場、年齢構成が震災後大きく変化
- 復興需要と労働力不足  
新人と超ベテラン、すぐ身近な先輩がいない、育てている余裕がない
- 就活・就労の継続が難しい人たちの課題が浮き彫りに

14



### ハローワークとの連携

- 精神障害者雇用トータルサポーターとの関わり  
ハローワーク相双では、精神疾患を持っている方や精神疾患を疑われる方への就労相談や就労支援を行う専門職員を配置。

⇒ しかし、就労支援だけでは就労継続が難しい方を支援する場所がない

- ・・・まずは相馬方部センターに相談してみよう！がきっかけで情報交換が始まった。

16

相双地区は若者支援に関する社会資源が・・・ない

- × 若者サポートステーション
- × 引きこもり支援センター
- × ユースプレイス事業
- × 職業能力開発促進センター

17

### 若者支援

- 相談や訪問活動から集団活動へ  
若い世代の引きこもり支援、就労支援

当事者から「集まる場が欲しい」というニーズがあり、平成27年6月よりチャレンジクラブを試行

初回のカレー作りの様子→

参加者は最初はスタッフとしか話せず、緊張していました・・・作業しているうちに、初めての会話が！



18

## チャレンジクラブ紹介

### 1. 目的

精神疾患を持つ方や震災の経過によって就労が思うように進まない方、日中の居場所や仲間を求めている方が集まり、安心して過ごせる場所と時間を提供する

### 2. 開催日

毎月1回

### 3. 対象者

日中の居場所を求めている20代～30代（加入時）

### 4. 内容

メンバーとの相談によってスポーツ、料理等

19

## チャレンジクラブの活動

### 平成27年度 活動内容（参加者）

6月 カレー作り（2名）

8月 卓球（4名）

9月 焼きそば作り（5名）

10月 南相馬市健康福祉まつり準備（5名）  
当日手伝い（3名）

11月 茶話会・スポーツ（4名）

12月 クリスマス会（5名）

2月 ピアサポーターとの交流会（4名）

3月 花植え活動（6名）

20

### 平成28年度 活動内容（参加者）

4月 お好み焼き作り（4名）

BBQ&お花見（4名）

5月 二本松コーヒータム（作業所）見学（4名）

6月 スポーツ（5名）

7月 好きな漫画発表会（5名）

8月 夏祭り（4名）

9月 電車でお出かけ（2名）

10月 当事者発表会（3名）  
南相馬市健康福祉まつり準備（3名）  
当日（1名）

11月 花植え活動（5名）

21

## 「チャレンジクラブ」の様子

夏祭り体験



当事者研究発表会

22

## チャレンジクラブのメンバー

チャレンジクラブ対象者11名

・就労中5名（休職中1名）、卒業1名

・男性7名、女性4名

・20代 4名、30代 6名、40代 1名

・精神疾患の内訳（未診断含む）

統合失調症2名、発達障害2名、適応障害2名、  
パニック障害1名、対人恐怖2名、その他2名

\*平成28年度11月時点

23

## 震災時のメンバーの状況

- ・精神科病院に入院中に被災、その後病院スタッフと中通りの病院に避難
- ・自宅からの避難、居住環境の変化
- ・治療中断、作業所など福祉サービスの利用停止
- ・県外で就労、就労継続が困難となり震災後実家に→実家で通院しながら就労を目指すも挫折、半引きこもり生活に
- ・震災まで続いていた友人関係が震災によって絶たれ、家族以外との交流が途絶える

24

## サロン活動の展開

チャレンジクラブメンバーから  
「もっと集まりたい」「回数を増やして欲しい」  
との声があがり・・・

平成28年4月～サロン活動試行（月2回）  
お茶をしたり、おしゃべりしたり・・・  
各々が好きなことをしながらゆったり過ごす  
「サロンぼちぼち」開始。

毎回2名～5名が参加。

25

## 集団活動の役割

- 集団活動の練習の場
- ピアサポート  
（仕事や生活、自分の抱える病気についての相談）
- 日中の外出先のひとつ  
（周りに予定があると言える！）
- リア充体験！  
（普通の若者としての体験）  
個人的に遊びに行く約束をしちゃったり？  
恋をしちゃったり？

26

## 個別支援の展開

メンバーそれぞれへの個別支援の開始

- 集団活動の場での目標の設定、振り返り
- 自分の体験を振り返り、まとめる  
→人に伝える
- 集団の場でのやり取りを個別相談で振り返り  
→SSTの実施
- カウンセリング
- 就労活動のモニタリング
- ケースワーク・・・等  
＊ケースに応じて支援内容を決定

27

## 若者支援の中で見つけた課題

- 引きこもりというよりも就労に結びつかない若者
- 何に困っているかも分からず、SOSを出せない
- 自分の障害を受け止められない
- 家族が精神障がい、過干渉、  
支えてくれる家族がいない
- 就労して終わり、ではない  
⇒就労継続のための支援の必要性

28

## 孤立した方（点）への支援

- ① 1対1の関係の構築（線の支援）  
（人への信頼の再構築）
- ② 複数の支援者との関係構築（面の支援）  
（世間話、噂話に慣れる）
- ③ 地域へ一緒に出掛ける（立体の支援）  
（誘って待つ。断ることもOK）
- ④ ボランティアとしての役割（動きの支援）  
（私たちが手伝ってください）

29



なごみまつり集合写真。男性のつどい&チャレンジクラブ  
メンバーも朝からお手伝いで参加してくれました！

30

2016年度活動報告

「寄り添うことの大切さ」



2016年12月9日(金)  
ふくしま心のケアセンター  
いわき方部センター

1

方部でインタビューしてみました！

ニーズを把握できた  
と感じたこと

困り事に寄り添えた  
と感じたこと

無い



2

でも...

ニーズの把握、  
困り事に寄り添うって  
ごく普通のことだよね・・・？



3

無い

無いってなんでだろう...？

分かりにくい、難しいのは  
なんでだろう...？

現状が  
分かりにくい

相談内容が  
難しい



4

なぜ状況が分かりにくいのか？

【環境】流動的な環境  
⇒情報量・変化の量が多い

【人】相談内容の個別化（二極化）  
⇒様々な対応が必要

【支援者】支援者の業務負担の増加  
⇒負担感の増加、疲弊



5

そのためには...

町とつながる（町と一緒に動く）

↓

- 適確なニーズと情報の把握
- 町の負担にならないための支援
- 町の状況に合わせた支援展開

↓

寄り添う支援（住民に）  
寄り添う支援（支援者に）  
寄り添う支援（避難先・避難元に）



6

### 方部として工夫していること

- 会議
- 事業
- ケース依頼（同行訪問）

+

- 定期支援（負担の軽減）
- 保護者メンタル（ニーズの焦点化）



7

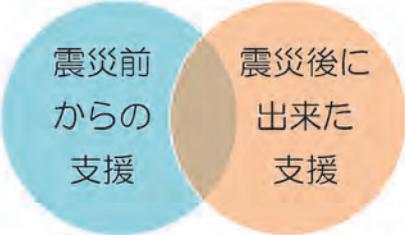
### 町からのニーズ【近況】

- アセスメント、支援の見立て
- 精神保健領域の相談支援
- 同行訪問（健康調査、地域調査）
- 予防活動支援



8

### 適切な（量・期間の）支援をする



➡ 支援が余分・過剰にならないような視点も必要

9

### 支援者の負担を増やさない

役場職員の疲弊

- 業務量の増大
- 社会資源が少なく町が対応

だからこそ...

- 各町に負担をかけない
- 各町の状況に合わせる
- 各町のフィールドで業務していることを意識

各町のニーズと各町の現状を把握してケアセンターがやるべきことをやる



10

### そうしたことで...

住民      支援者



↓

安心感の増大  
負担感の減少

11

### 最後に...

町とつながるために大事なことは？

時間を共有すること

↓

寄り添う支援



12

## 人材育成・研修会など

※ NPO 法人 3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会、通称「みんなく」

主催・依頼元	担当方など	事業名・テーマ	講師 など	対象者	開催回数	受講者数
当センター	基幹	支援者向け研修会 放射線の健康への影響	福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座講師 宮崎真氏	支援者	1	45
新潟県	基幹	三県連携事業新潟研修会	ふくしま心のケアセンター	市町村職員・支援者	1	46
帝塚山大学	基幹	地域で働く保健師の役割 心理士による被災者への「心のケア」	ふくしま心のケアセンター	帝塚山大学学生・講師	1	155
福島県	基幹	平成 28 年度市町村職員派遣職員等メンタルヘルス研修	ふくしま心のケアセンター	市町村職員派遣職員	3	82
当センター	基幹	ふくしま心のケアセンターシンポジウム	兵庫県こころのケアセンター長 加藤寛氏、みやぎ心のケアセンター気仙沼センター地域支援課長 片柳光昭氏、双葉町健康福祉課主幹兼総括主任保健師 味戸智子氏ほか	医療・保健・福祉従事者、被災者支援に携わる支援者、その他関係機関の職員	1	83
当センター	県北方部	平成 28 年度ふくしま心のケアセンター県北方部センター市民向け講演会「ふくしまを生きる」	メンタルクリニックなごみ副院長／福島県臨床心理士会副会長 須藤康宏氏	どなたでも	1	39
飯舘村社会福祉協議会	県北方部	アサーショントレーニング	ふくしま心のケアセンター	飯舘村社会福祉協議会職員	1	17
みんなく※	県北方部	アサーショントレーニング	ふくしま心のケアセンター	みんなく福島事務所コミュニティ交流員	1	7
福島県県北保健福祉事務所・福島県相双保健福祉事務所	県北方部	アルコール家族教室	ふくしま心のケアセンター	アルコール問題のある家族	15	138
双葉町	県北方部	うつ病、うつ状態について	ふくしま心のケアセンター	双葉町住民(北幹線第二仮設)	1	8
双葉町社会福祉協議会	県北方部	活動を通して伝えたいこと、リラクゼーション等	ふくしま心のケアセンター	双葉町住民	1	29
みんなく※	県北方部	花粉症について、心の免疫力について	ふくしま心のケアセンター	飯坂団地住民、みんなく福島事務所コミュニティ交流員	1	12
飯舘村	県北方部	こころの変化への気づき ～健康な生活を送るために～	ふくしま心のケアセンター	飯舘村住民(国見上野台仮設)	1	6
飯舘村	県北方部	睡眠と休養	ふくしま心のケアセンター	松川雇用促進住宅入居住民	1	10
福島県消防学校	県北方部	ストレスについて	ふくしま心のケアセンター	学生	1	82
飯舘村	県北方部	ストレスの対処法について	ふくしま心のケアセンター	松川雇用促進住宅入居住民	1	9
福島県社会福祉協議会	県北方部	それぞれの役割とセルフケア	ふくしま心のケアセンター	生活支援相談員(安達地区)	1	26
福島県社会福祉協議会	県北方部	それぞれの役割とセルフケア	ふくしま心のケアセンター	生活支援相談員(福島地区)	1	13
福島県社会福祉協議会	県北方部	それぞれの役割とセルフケア	ふくしま心のケアセンター	生活支援相談員(いわき地区)	1	16
浪江町	県北方部	免疫力、ヒートショック、タオル体操	ふくしま心のケアセンター	浪江町を含む双葉郡の住民	1	17
みんなく※	県北方部	免疫力について	ふくしま心のケアセンター	飯坂団地住民、みんなく福島事務所コミュニティ交流員	2	31
当センター	県中・県南方部	アルコール関連問題に関する勉強会	医療法人大島クリニック理事長・院長 大島直和氏、郡山断酒新生会当事者、須賀川断酒会家族	社会福祉協議会職員、自治体職員、福島県県中保健福祉事務所、福島県県南保健福祉事務所職員、その他被災者支援に携わっている方	2	59
当センター	県中・県南方部	自殺予防セミナー「心の健康講座」	福島県県中保健福祉事務所保健師 遠藤美咲氏、福島県県南保健福祉事務所保健師 伊藤麻衣氏、福島県立医科大学医学部疫学講座主任教授 大平哲也氏	県中・県南域の一般住民	2	111
当センター	県中・県南方部	市民講座 「ストレスと癒やしを学ぶ市民講座」	ふくしま心のケアセンター	県中・県南域の一般住民	1	49
当センター	県中・県南方部	復興支援者のための研修会「さきを見据えた支援～将来像指向的ケース検討のすすめ～」	健康なまちづくり支援ネットワーク 全国健康保険協会理事 岩永俊博氏	被災者支援に携わる機関、団体等の職員	1	53
川内村	県中・県南方部	日常生活と心のケア	ふくしま心のケアセンター	川内村保健協力員	1	10
山形県	県中・県南方部	「心のケア」福島・山形・新潟三県連携事業「三県合同研修会・情報交換会」	ふくしま心のケアセンター	福島県、山形県、新潟県において被災者の相談、見守り活動を行っている相談員等	1	55

## 人材育成・研修会など

※ NPO 法人 3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会、通称「みんぶく」

主催・依頼元	担当方など	事業名・テーマ	講師 など	対象者	開催回数	受講者数
須賀川市	県中・県南方部	「相談を受けたら。対応の仕方を学ぼう。」	ふくしま心のケアセンター	須賀川市役所 47 歳以上の職員	2	159
古殿町	県中・県南方部	いのちを守る相談役（ゲートキーパー）養成講座	ふくしま心のケアセンター	民生児童委員、学校関係者、地域住民	2	41
双葉町社会福祉協議会	県中・県南方部	認知症の理解と対応について	ふくしま心のケアセンター	民生児童委員	1	20
田村市	県中・県南方部	田村市「こころの健康教室」 「統合失調症を理解する～どうすればいいの?～」	ふくしま心のケアセンター	精神障害者家族、支援関係者、民生児童委員、その他	1	58
田村市	県中・県南方部	「感情マネジメントに関する講話」 「思春期の子どもとのコミュニケーションに関する講話」	ふくしま心のケアセンター	移中学校生徒、移中学校教員、保護者、田村市保健師	1	71
須賀川市健康づくり推進員 OB 会	県中・県南方部	「傾聴」について	ふくしま心のケアセンター	須賀川市健康づくり推進員 OB	1	13
須賀川市	県中・県南方部	相談の実際「相談を受けたら・・・。対応の仕方を学ぼう。」	ふくしま心のケアセンター	公立岩瀬病院職員	2	60
みんぶく郡山※	県中・県南方部	ストレスとセルフケアについて	ふくしま心のケアセンター	みんぶく郡山職員	1	9
棚倉町	県中・県南方部	ゲートキーパーとは	ふくしま心のケアセンター	棚倉町社会福祉協議会	1	7
日本トラウマティック・ストレス学会	県中・県南方部	トラウマと喪失	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
公益財団法人日本精神科医学会	県中・県南方部	福島における復興の現状と課題	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
JDGS Project	県中・県南方部	あいまいな喪失に関する事例の提出	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
当センター	会津方部	支援者向け研修会「あいまいな喪失」	ふくしま心のケアセンター	支援者	1	32
当センター	会津方部	市民講座「心の健康講座」	福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座准教授 國井泰人氏	住民	2	72
西会津町	会津方部	西会津町職員組合メンタルヘルス講演会 ストレスと上手に付き合うコツ	ふくしま心のケアセンター	西会津町職員	1	32
当センター	相馬方部	アルコール依存症についての勉強会、事例検討会	駒木野病院アルコール総合医療センター副センター長 宮脇真一郎氏、同 精神保健福祉士 中込吉宏氏	アルコール問題支援関係者	2	53
当センター	相馬方部	高齢者メンタルヘルス研修会	桜が丘病院院長 小林幹穂氏	高齢者支援関係者	3	32
当センター	相馬方部	成年後見人制度勉強会	出雲市役所総務部次長兼人事課長 三島武司氏	支援関係者	1	17
認定 NPO 法人心の架け橋いわて	相馬方部	被災地支援 3 団体交流企画ここ・から・なごみ災害復興メンタルヘルス研修	大阪経済大学客員教授 末村祐子氏	被災地支援関係者	1	53
なみえ相双会	相馬方部	メンタルヘルス研修会	メンタルクリニックなごみ院長 蟻塚 亮二氏	なみえ相双会	1	9
福島医大	相馬方部	学生のための福島災害医療セミナー	ふくしま心のケアセンター	福島医大学生	1	50
しんちの子育て考え隊	相馬方部	こころとからだをほぐそう	ふくしま心のケアセンター	しんちの子育て考え隊	1	7
南相馬社会福祉協議会	相馬方部	心の発達とその問題	ふくしま心のケアセンター	保育サポーター養成講座受講者	1	20
南相馬市	相馬方部	子どもと保護者のメンタルケアについて	ふくしま心のケアセンター	市内保育園・幼稚園の先生	1	40
相双公共職業安定所	相馬方部	障害者雇用の特性等	ふくしま心のケアセンター	障害者雇用支援機関、障害者雇用・雇用検討企業、市町村	1	19
当センター	相馬方部	ストレスチェック表の記入方法について、アルコール教育	ふくしま心のケアセンター	相馬地方広域消防署職員	1	39
福島県相双保健福祉事務所	相馬方部	相談面接の実践	ふくしま心のケアセンター	地域保健福祉新任者	1	8
相双公共職業安定所	相馬方部	なごみとの関わりと精神疾患の基礎	ふくしま心のケアセンター	ハローワーク職員	2	27
みんぶく※	相馬方部	災害公営住宅・復興公営住宅の支援	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
日本健康政策福祉学会	相馬方部	「若者支援を考える～災害からの中長期支援～」	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
日本健康政策福祉学会	相馬方部	「高齢男性の孤立を考える」	ふくしま心のケアセンター	—	1	—

## 人材育成・研修会など

※ NPO 法人 3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会、通称「みんぶく」

主催・依頼元	担当方など	事業名・テーマ	講師 など	対象者	開催回数	受講者数
日本精神科医学会	相馬方部	「3県こころのケアセンターの活動報告」	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
NPO 法人 ジャパンプラットフォーム	相馬方部	JPF 福島支援のフェーズはいまどこにあるか	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
当センター	いわき方部	被災住民の支援にあたる支援者および医療・保健・福祉従事者等支援者向け研修会「受診前相談の基本」～希死念慮を訴える方への対応等について～	埼玉県立精神保健福祉センター地域支援担当主幹 塚本哲司氏	(1)東日本大震災及び福島第一原発事故発生による被災住民の支援にあたる支援者 (2)医療・保健・福祉従事者	1	31
福島県相双保健福祉事務所	いわき方部	平成 28 年度自殺予防ゲートキーパー養成研修会(いわき地区)	帝京大学医学部附属満口病院精神神経科教授 張賢徳氏、福島県立医科大学医学部神経精神医学講座助手 土屋垣内晶氏	市町村保健師、病院関係者	1	50
いわき市	いわき方部	いわき市出前講座	ふくしま心のケアセンター	福島県いわき地方振興局職員、内郷青年大学登録者	3	132
福島県社会福祉協議会	いわき方部	いわき地区における生活支援連絡会時研修	ふくしま心のケアセンター	いわき地区の生活支援相談員	1	16
福島県相双保健福祉事務所いわき出張所	いわき方部	大熊町社会福祉協議会グループミーティング	ふくしま心のケアセンター	大熊町社会福祉協議会生活支援相談員	4	67
福島県相双保健福祉事務所	いわき方部	福島県地域保健福祉職員新任研修フォローアップ研修	ふくしま心のケアセンター	平成 28 年度福島県地域保健福祉職員新任研修に参加した県及び市町村職員	1	12
福島県精神保健福祉協会いわき支部	いわき方部	福島のアレルギー問題を考える	ふくしま心のケアセンター	専門員	1	19
大熊町	いわき方部	心とからだのリラクゼーション～タッピングタッチを通して～	ふくしま心のケアセンター	大熊町保健協力員、役場職員等	1	26
福島県相双保健福祉事務所いわき出張所	いわき方部	難病相談会・交流会	ふくしま心のケアセンター	難病患者とその家族	1	6
大熊町	いわき方部	訪問前の事前レクチャーについて	ふくしま心のケアセンター	大熊町看護職員	1	10
日本トラウマティック・ストレス学会	いわき方部	故郷に還るということ：福島現場から	ふくしま心のケアセンター	—	1	—
公益社団法人全日本断酒連盟福島県断酒しゃくなげ会	アルコール・プロジェクト	福島県断酒しゃくなげ会創立 45 周年記念事業・ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業 市民公開講座「依存症って？」	医療法人大島クリニック理事長・院長 大島直和氏(全断連顧問)	福島県民	1	159
当センター	アルコール・プロジェクト	アルコールTV 会議研修会	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター院長 杠岳文氏	市町村保健師、病院関係者等	9	6
当センター	アルコール・プロジェクト	ふくしま心のケアセンター地域アルコール対応力強化事業 平成 28 年度関係者向け研修会	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター院長 杠岳文氏、同 精神科医長 遠藤光一氏	被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者	2	131

活動資料

市町村等主体の集団活動（サロン・健康相談等）への協力

※ NPO 法人 3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会、通称「みんぶく」

内 容	主催機関	開催回数	参加者数
アルコール家族教室	福島県中保健福祉事務所・福島県相双保健福祉事務所	15	57
飯坂団地健康支援：血圧測定、健康相談	飯坂団地自治会	10	145
飯館村よろず相談会	飯館村	1	8
薄磯地区健康増進事業	いわき市	4	36
県中保健福祉事務所うつ病家族教室	福島県中保健福祉事務所	3	13
大熊町こころの元気を育てる講座	大熊町	4	29
大熊町こころの健康講座	大熊町	1	18
大熊町こころの健康相談事業（ちょこっとカフェ）	大熊町	8	26
大熊町ふらっとカフェ	大熊町	7	4
大熊町もみの木サロン	大熊町	1	14
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：扇町1号仮設	大熊町	3	7
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：扇町5号仮設	大熊町	2	4
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：亀公園仮設	大熊町	2	8
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：河東仮設	大熊町	2	3
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：河東金道仮設	大熊町	2	5
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：金道仮設	大熊町	1	3
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：城前仮設	大熊町	3	7
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：東部仮設	大熊町	1	4
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：長原仮設	大熊町	3	14
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：年貢町復興	大熊町	3	26
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：松長近隣	大熊町	6	13
大熊町会津地域仮設・復興公営住宅健康相談会：みどり公園仮設	大熊町	2	4
大玉村社協サロン	大玉村社会福祉協議会	9	202
おだかぶらっとほーむサロン	小高を元気にする会	2	10
鹿島に集まっ会	南相馬市	9	94
仮設住宅健康講話	南相馬市	21	128
借り上げ住宅健康講話	南相馬社会福祉協議会	2	38
川内村イキキ高齢者なり隊増やし隊事業	川内村	2	31
川内村精神障がい者デイケア	川内村	7	24
熊本地震募金活動・会津我家笑顔めしスタッフ協力	楢葉町 仮設自治会	1	59
郡山市社協茶話カフェろっこ	郡山市社会福祉協議会	11	214
心の元気を育てる講座	大熊町	1	10
子育てママの女子会	しんちの子育て考え隊	1	36
小法師サロン	会津若松市社会福祉協議会	4	108
サロンならば	サポートセンターならば	9	155
社協サロン「てとて」：血圧測定、健康相談	福島市社会福祉協議会	24	1310
しゃべり場つぼみの会	南相馬市	1	3
城北復興団地入居説明会及び交流会	大熊町	1	26
白河市社会福祉協議会サロン	白河市社会福祉協議会	1	27
新地町地域交流サロン	新地町社会福祉協議会	46	497
新地ママサロン	新地町	2	61
すくすく相談会	南相馬市	18	380
相双地域あそびの教室	福島県相双保健福祉事務所	8	80
高平幼稚園ママサロン	高平幼稚園保護者	1	10
とみおか元気アップ教室	富岡町さくらスポーツクラブ	7	60
富田町復興公営住宅サロン	富岡町社会福祉協議会	13	69
豊岡地区健康増進事業	いわき市	6	139
浪江いきいき交流会	浪江町社会福祉協議会	1	41

## 市町村等主体の集団活動（サロン・健康相談等）への協力

※ NPO 法人 3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会、通称「みんなぶく」

内 容	主催機関	開催回数	参加者数
なみえ相双会	なみえ相双会	5	254
浪江町かもめっ子クラブ	浪江町、NPO 法人ハートフルハート未来を育む会	11	169
楢葉町元気アップ教室	楢葉町	1	3
楢葉町ママためサークル	楢葉町	5	25
楢葉町離乳食教室（ヨガ事業）	楢葉町	1	6
楢葉町会津我家笑飯めし	楢葉町	12	129
南湖南復興公営住宅顔合わせ会	南湖南復興公営住宅	1	23
年貢町団地交流会	年貢町団地自治会・みんなぶく	2	49
八方内サロン	浪江町	20	149
東原公営住宅サロン	大熊町	1	10
ひきこもり家族教室	福島県県中保健福祉事務所・福島県双保健福祉事務所	7	57
白虎団地 2 入居前交流会	みんなぶく※	1	7
白虎町復興住宅イベント	みんなぶく※	1	10
平田村親子ふれあい教室	平田村、NPO 法人ハートフルハート未来をはぐくむ会	11	256
双葉サロン	双葉町社会福祉協議会	22	234
双葉町「郡山健康サロン」	双葉町社会福祉協議会	1	25
双葉町「白河健康サロン」	双葉町社会福祉協議会	1	22
双葉町「八山田団地健康教室」	双葉町	1	10
双葉町栄養サロン	双葉町	12	128
双葉町社会福祉協議会ひだまりサロン	双葉町社会福祉協議会	6	120
古川町復興住宅イベント	みんなぶく※	1	8
まちづくり会津健康相談会	まちづくり会津	2	11
南相馬市震災遺児等支援事業「親子交流旅行」（1泊2日）	南相馬市	1	17
南相馬市復興公営住宅四季サロン	復興住宅自治会	1	9
三春町親子ふれあい教室	三春町保健センター	6	154
みんなぶく会津・城北団地交流会	みんなぶく※	2	44
みんなぶく会津・白虎団地交流会	みんなぶく※	1	8
みんなぶくサロン	みんなぶく※	5	45
幼稚園巡回相談	南相馬市	1	
幼稚園保護者対象ママサロン	高平幼稚園	1	12
四倉地区健康相談会	いわき市	1	13

## 関係機関との会議など

内 容	開催地・会場	開催回数
会津保福合同ミーティング	福島県会津保健福祉事務所（会津若松市）	12
会津障がい保健福祉圏域連絡会	竹田総合病院（会津若松市）ほか	6
会津保福・若松社協定例ケース連絡会	福島県会津保健福祉事務所（会津若松市）	11
安達地区被災者生活支援調整会議（福島県社会福祉協議会主催）	二本松市安達公民館（二本松市）	1
飯舘村ケース報告	飯舘村役場（飯舘村）ほか	10
飯舘村健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	1
飯舘村への支援体制報告会	飯舘村役場（飯舘村）	1
いわき市ケース報告会	いわき市総合福祉センター（いわき市）	4
いわき市四倉地区センターケース報告	四倉地区センター（いわき市）	5
いわき地区における生活支援連絡会（福島県社会福祉協議会主催）	大熊町役場いわき出張所（いわき市）	7
大熊町いわき市内福祉行政情報交換会	大熊町役場いわき出張所（いわき市）	7

活動資料

関係機関との会議など

内 容	開催地・会場	開催回数
大熊町月例報告	県中・県南方部センター（郡山市）	1
大熊町町定例打合せ	会津方部センター（会津若松市）	3
大熊町障がい者支援事業所会議	大熊町役場会津若松出張所（会津若松市）	12
大熊町地域ネットワーク会議（会津）	大熊町役場会津若松出張所（会津若松市）	12
おだかぶらっとほーむ定例会議	おだかぶらっとほーむ（南相馬市）	2
仮設住宅ケースカンファレンス	仮設住宅集会所（南相馬市）ほか	3
葛尾村月例報告	葛尾村役場三春出張所（三春町）	12
川内村月例報告	川内村ゆふね（川内村）	12
川俣町ケース報告	福島県県北保健福祉事務所（福島市）ほか	3
川俣町健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	1
川俣町へ支援対象者について説明	川俣町保健センター（川俣町）	1
県外避難者三県連携事業打合せ	福島県庁（福島市）	1
県社会福祉協議会生活支援相談員連絡会	はまなす館（相馬市）	5
県社協月例会議	福島県総合社会福祉センター（福島市）	6
県南保健福祉事務所、浪江町との打合せ	福島県県南保健福祉事務所（白河市）	1
県北地域被災者健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	1
県北保健福祉事務所との定例会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	11
県社協連絡会（会津地域における応急仮設住宅等支援に関する連絡会）	大熊町役場会津若松出張所（会津若松市）	5
郡山市応急仮設住宅支援連絡会	郡山市総合福祉センター（郡山市）	4
郡山市議会 安全・安心なまちづくり特別委員会	郡山市役所西庁舎（郡山市）	1
郡山市内支援連絡会	郡山市総合福祉センター（郡山市）	1
郡山市セーフコミュニティ推進協議会	郡山市総合福祉センター（郡山市）ほか	9
「こころの健康度・生活習慣」専門委員会	福島県立医科大学（医大）	20
こころのケアセンター連絡会	相馬方部（相馬市）	2
就労支援者学習会	ふくしま生活就職応援センター（南相馬市）	1
白河方部生活支援連絡会	白河市老人福祉センター（白河市）	6
新地町仮設住宅入居者等支援関係者情報交換会	新地町保健センター（新地町）	4
精神疾患患者の通報・相談等の支援に係る情報交換会	福島県県中保健福祉事務所（須賀川市）	1
相双地域等障がい児・者支援関係者会議	福島県いわき合同庁舎（いわき市）	4
相双保健福祉事務所いわき出張所 保健事業担当者会議	大熊町役場いわき出張所（いわき市）ほか	2
相双保健福祉事務所いわき出張所定例打ち合わせ	いわき方部センター（いわき市）ほか	4
相双保健福祉事務所いわき出張所へのケース報告	福島県相双保健福祉事務所いわき出張所（いわき市）	2
相双保健福祉事務所主催保健従事者担当者会議	いわき市大熊町出張所（いわき市）	1
相馬市飯館村仮設住宅ケース支援検討会	仮設住宅談話室（相馬市）ほか	4
相馬市自立支援協議会生活部会	はまなす館（相馬市）ほか	12
田村市・都路町月例報告	田村市役所（田村市）	12
DPAT 報告会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	1
地域アルコール対応力強化事業「相双モデル事業」関係者会議	南相馬市消防・防災センター（南相馬市）	1
富岡町ケース報告	福島県青少年会館（福島市）、富岡町役場いわき支所（いわき市）ほか	9
富岡町月例報告	富岡町役場郡山事務所（郡山市）ほか	11
富岡町健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	2
富岡町連携ケア会議	富岡町役場いわき支所（いわき市）	6
浪江町ケース報告	浪江町役場二本松事務所（二本松市）、日赤なみえ保健室（いわき市）ほか	19
浪江町月例報告	浪江町役場二本松事務所（二本松市）	1
浪江町健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	1

## 関係機関との会議など

内 容	開催地・会場	開催回数
浪江町健康支援者会議	日赤なみえ保健室（いわき市）	12
浪江町支援者会議	浪江町役場南相馬出張所（南相馬市）	1
浪江町定例打合せ	会津方面センター（会津若松市）	1
浪江町への支援体制報告会	浪江町役場二本松事務所（二本松市）	1
楢葉町ケース報告	楢葉町役場いわき出張所（いわき市）ほか	7
楢葉町地域共生ケア会議	グループホームならば（会津美里町）、サポートセンターならば（いわき市）ほか	24
楢葉町放射線対策委員会	楢葉町役場（楢葉町）	1
楢葉町定例打合せ	会津方面センター（会津若松市）	4
楢葉町情報共有会議	グループホームならば（会津美里町）ほか	12
二本松市・本宮市・大玉村内における避難者支援等に関する連絡会（福島県社会福祉協議会主催）	本宮市・元いきいき応援プラザ（本宮市）	1
二本松市・本宮市・大玉村内における避難者支援等に関する連絡会（福島県社会福祉協議会主催）	安達公民館（二本松市）	1
原町保健センター支援者会議	相馬方面（南相馬市）	1
ひきこもり担当者会議	福島県相双保健福祉事務所（南相馬市）	1
被災者健康支援連絡会	小高区保健福祉センター（南相馬市）ほか	2
広野町ケース報告	広野町保健センター（広野町）	6
福島県県中保健福祉事務所との定例会	県中・県南方面センター（郡山市）	10
福島県被災者生活支援調整会議	ホテル福島グリーンパレス（福島市）	2
福島県有識者懇談会	福島テルサ（福島市）	1
福島地区における避難者支援等に関する連絡会（福島県社会福祉協議会主催）	福島県社会福祉協議会（福島市）	3
双葉町アルコール勉強会	双葉町いわき出張所（いわき市）	1
双葉町ケース報告	福島県青少年会館（福島市）、双葉町役場いわき出張所（いわき市）ほか	8
双葉町健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）	1
双葉町支援者会議	双葉町社会福祉協議会南相馬出張所（南相馬市）	1
双葉町社会福祉協議会サロン	双葉町社会福祉協議会南相馬出張所（南相馬市）	1
双葉町保健福祉実務者連絡会	双葉町社会福祉協議会郡山事務所（郡山市）、双葉町役場いわき出張所（いわき市）	23
復興公営住宅入居者支援実務者会議	双葉町役場いわき出張所（いわき市）ほか	2
平成 28 年度相双地域自殺対策推進協議会	福島県相双保健福祉事務所（南相馬市）	1
平成 28 年度福島県災害派遣精神医療チーム運営協議会	ふくしま中町会館（福島市）	1
平成 28 年度福島県自殺対策推進協議会	福島市（福島県庁）	3
平成 28 年度福島県被災者の心のケア支援事業運営委員会	福島市（杉妻会館）	1
平成 29 年度事業打合せ（富岡町）	富岡町役場郡山事務所（郡山市）	1
平成 28 年度福島県相談支援専門職チーム会津調整会議	竹田総合病院（会津若松市）	4
保健福祉担当者会議	福島県いわき合同庁舎（いわき市）	1
南相馬市鹿島保健センター支援者会議	鹿島保健センター（南相馬市）	1
南相馬市ケース報告	相馬方面（南相馬市）	2
南相馬市健康支援活動連絡会	福島県県北保健福祉事務所（福島市）、南相馬市原町保健センター（南相馬市）	3
南相馬市自立支援協議会発達障がい者支援部会	南相馬市役所（南相馬市）ほか	10
南相馬市発達支援室へのケース報告	南相馬市役所（南相馬市）	1
南相馬市保健センター情報交換	相馬方面（南相馬市）	1
南相馬市立総合病院情報交換会	南相馬市立総合病院（南相馬市）	1
三春町内における応急仮設住宅支援等に関する連絡会	三春町保健センター（三春町）ほか	5
みんぶくコミュニティ形成事業成果報告会	福島テルサ（福島市）	1
ゆうゆうクラブ地域ミーティング	ゆうゆうクラブ（相馬市）	3



## 【編集後記】

当センターの活動も6年目となり、活動記録誌は第5号の発行となりました。当センターは、発足以来、各自治体、医療機関、支援団体と連携し、継続して被災・避難者および支援者の心のケアに対応してきました。

この間、相双地域の各自治体がその機能を県内外各地域から相双・いわき地域へ集約移転させるとともに同地域の被災・避難者も生活拠点を移し、さらに一部住民の帰還も始まりました。しかし、震災から経過した時間は、被災・避難者にとって多くの前提を変え、各々の背景はより複雑化しています。

このような状況を踏まえ、今年度作成の活動記録誌は「それぞれの選択により添う」をテーマとし、編集作業にあたりました。さらに、当センターの取り組みなど記載内容をよりよく理解してもらうため、各自治体機能移転の経過も図として盛り込みました。

編集内容の主体は、各方部センターの年度内活動の報告となりますが、今回も、原稿をお寄せ下さった皆さまをはじめとし、多くの方々にご協力を頂きました。また、作業に携わった編集委員の皆さま、および各方部センターのスタッフの皆さまには、多忙にもかかわらず多くの協力を頂き、感謝申し上げます。

最後に、本活動記録が、多くの皆さまにとり、当センター活動へのご理解の一助となれば幸甚です。

活動記録誌編集委員会副委員長 後藤大介

### ふくしま心のケアセンター活動記録誌

2016(平成28)年度

第5号

表紙写真：日光国立公園（畑哲信：福島県精神保健福祉センター所長）

発行日：2018(平成30)年3月15日

編集発行：一般社団法人 福島県精神保健福祉協会  
ふくしま心のケアセンター

Fukushima Center for Disaster Mental Health

〒960-8012 福島市御山町8-30 県保健衛生合同庁舎5階

TEL (024)535-8639 FAX (024)534-9917

被災者相談ダイヤル(ふくここライン) (024)925-8322

<http://kokoro-fukushima.org/>

印刷所：株式会社 第一印刷